

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の創生なし』

## 会報

NO. 35

2016.1.4 発行

編集責任：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

### 第 35 回 「ふるさと春日井学」研究フォーラム』

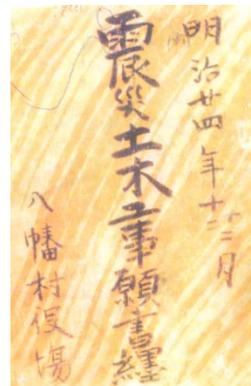
#### テーマ『濃尾地震と落合池』

平成 25 年 12 月 6 日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『濃尾地震と落合池』で開催しました。講師は近藤雅英氏(本会副会長、春日井古文書研究会会長)でした。落合池、大良池、生地川、大池、茨沢池について濃尾地震後の「工事願」とその「設計書」が水利組合所有の「下原新田公用書類入」（木箱）に残されており、それを近藤氏が解読し整理された成果を他の既存資料とともに春日井の被害状況をまとめられた未発表の貴重な講演内容でした。

市民 29 名の参加がありました。



講演風景



写真：「下原新田公用書類入れ」

写真：「震災土木工事願書纏」

## －発表要旨－

震災と防災シリーズ 2 弾として近藤雅英氏(当フォーラム副会長、春日井古文書研究会会長)による「**落合池と濃尾地震**」の講演を戴いた。前日には名古屋大学の「中部『歴史地震』研究懇談会」でこのテーマで発表されている。わずか 20 分の発表で、今回はたっぷり時間をとっての発表をしていただけることになった。(記録者の注)名古屋大学の同懇談会は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災での教訓から名古屋大学減災連携研究センターが、南海トラフ巨大地震に備えて、産官学民の連携でその対策を考える場としてつくられたもので、歴史的な自然災害を永年調査されてきた人に発表の場を与える目的でつくられたものである。

### I 春日井市域の濃尾地震被害状況～記念碑と資料

(1) **記念碑**は 5 つある。①八幡村に「落合池」の改修記念碑の案内板があり、堤防破損とある②大泉寺村に「鋏池」堤防が崩れたため修復とある③下市場村に「沢渡(さわと)池」堤防が悉く崩れたと水神碑にある④下原村の「大池」の堤防が皆崩れ、死者 4 名、負傷 18 名とある⑤高蔵寺村の「新池・洞口池」では高蔵寺水利被害が甚大で、貯水池を新築とある。

(2) **資料**に改めて目をやってみると、資料だけでは西春日井郡の被害のひどさに比し、春日井市域の被害は少ないことになっている。資料⑧は「**愛知県地震被害史**」(愛知県防災会議地震部会)の被害状況表では、八幡村は死亡 0、負傷 1 名、建物全壊 3 棟、同半壊 11 棟、同破損 195 棟になっている。この被害表は出回っている唯一のもの。案外少ないと見ていたが、かなり被害が出ていたと感ずるようになった。落合池に関するものは三点のみである。手元の「落合池 灌漑の起こり」パンフ(平成 15 年 6 月発行)では 275m にわたり堤防が亀裂したとある。この程度の被害しか出ていないように見えるが、なかなか大変な被害を出したと思うようになった。⑨「東野誌」(東野誌編集委員会)には軒の崩れた家もあったこと、金ヶ口池・沢渡池の堤防が悉く破壊されたことも載っている。被害表について「近藤注」として、この頃の戸数は 6, 220 戸で、家屋等の損壊 2, 688 棟は 43.2% の被害に当ると、被害の大きさについて触れられた。

<震災被害資料>①「春日井市史」②「春日井市史資料編」③「高蔵寺町誌」に不二・玉川・雛五各村の被害④「明治 24 年 10 月 28 日の記録」(愛知県警察部)⑤「愛知県災害誌」に田楽村の与兵池決壊⑥「落合池 灌漑の起こり」(八幡水利組合)⑦「春日井史」に龍昌寺の本堂半壊、学校・役場は全壊など⑧「春日井郡誌(東春日井郡)」「東春日井郡農会史」に 16 村の被害一覧、東春日井郡は最激震部、土地はほとんど地割れ⑨「東野誌」⑩「下市場史(篠木村)」に下原・八幡・小木田・雛五の被害⑪「篠岡百話」(小牧市史篠岡中学校)に与兵池の決壊⑫「愛知県歴史全集(寺院篇)」に太清寺・禅源寺の損壊⑬「勝川文書」(勝川町)に建物崩壊、田畑湿地化、堤防損壊、地租延納・北海道移住⑭「写真集(明治・大正・昭和)春日井」(春日井写真集委員会)に鷹来地区の家屋倒壊の写真 以上を近藤氏が集約された。

## II 落合池の所在と概要

(1) **所在は八幡村** (現在東野町) 下原村東野の給人の成瀬隼人正が自分新田とし開発。1682年に下原新田として独立村に。当初東野新田といい、西島・東野島・落合島・六軒屋島・鳥居松島の5地区があった。明治維新で春日井郡下原新田、明治13年2月に東春日井郡下原新田、明治22年10月に同郡八幡村、明治39年7月に同郡篠木村(小木田村・下原村と合せ)、昭和18年6月に春日井市に。



(2) **落合池**は灌漑用の溜池として、寛文6年(1666)から寛文10年ごろに築造と推定される。「寛文村々覚書」に記述)池の名は大草山、下原村、大泉寺方面からの水が流れ込む所から付けられた。面積約20町歩、標高46メートル。水深1尺5寸から2尺。灌漑面積(当時)38町4反余。池の特徴は普通は掘って造るが、平地に土手を造り水を溜める造りである。堤防から水が出ると、周辺地区に水が溢れ出て水害を広める。

## III 地震の被害

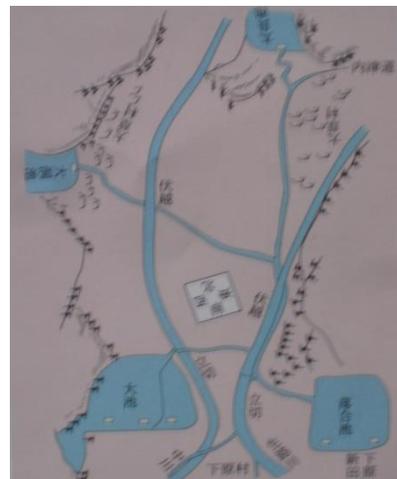
(1) **落合池の地震被害** ①堤防破壊153間、総築工工事費1,398円70銭。②堤防損壊1,291間に渡り着水不能で修築。③杵樋伏替 破損3ヶ所41間半、外に掘割。④中堤切所8間、水中下埋め6間、堤防築立203間、葎石2か所44間、中堤の杵2か所12間。



⑤東杵破損 2か所29間3尺、馬踏修繕、杵樋伏替2か所15間1尺⑥南堤堤防亀裂修築、東堤の堤防亀裂⑦皆村費杵2間、中堤カサ上げ・鉄砲杵伏替・ミヨ・トマリ中堤、東堤、小堤、小筒の水継ぎ、犬房

の伏越。

(2) **生路川の地震被害** ①堤防7か所232間破壊 ②堰堤9か所③用水伏越杵樋11間(犬棒)④掘割2間8寸⑤用水立切 高6尺 長2間8寸⑥犬棒大洞水路 伏越杵樋 立切まで土砂溜170間余⑦皆村費(10坪以下の樋管。6坪以下の橋梁小用水路復旧) 橋板3間、杵2間2尺など8か所。



(3) 八田川の被害 ①土橋 6間3尺悉皆陥落 ②伏越杵樋 10間4尺③皆村費 土橋5間8尺悉皆陥落

(4) 大池の被害 ①堤防破壊 347間 流入土砂浚渫②杵樋 20間損傷③皆村費

(5) 茨沢池の被害 ①堤防破壊 3か所 186間3尺、修築工事費(8/10 地方税補助)②堤防破壊(7/10 地方税補助)③茨沢中池蒔石 74間9分損傷④同上池敷石 90間8分損傷⑤皆村費 水継ぎ

伏越の杵 3、小用水路 85間損傷、西へ引込杵

(6) 大良池の被害 ①堤防 破壊 108か所、切所・内法・水中下埋め・上置き 985円90銭 ②用水杵樋 19間(ほかに堀)③犬棒伏越杵樋 11間破壊

(7) 大洞池の被害 ①堤防破壊 81間②堤防刃金締築立 81間③用水路堤防破裂 123間④皆村費 小用水路 120間5分損傷

(8) その他の被害 水沢・小堤・籠池・中川通西野池・池合・与兵池・道廻間池・柿之木池・四ツ池の被害は省略する。

#### IV 溜池及び河川堤塘など修繕費(一覧表) \* 円未満切捨て

(1)春日井市 溜池 74,692円 河川堤塘等 23,767円 計 98,459円

うち八幡村 9,839円 計 9,839円

(2)小牧市 62,829円 1,992円 計 65,821円

V 八幡村のその他村負担の被害 ①役場 村有建物 1棟 瓦葺 43坪9合 費用 150円 ②民家は概大破・半倒同様③皆村費修繕(樋管 10坪以下、橋梁・小用水路 6坪以下) ④里道 計 1,968間 ⑤皆村費= 村で全部負担するもの。⑥堤塘(ていとう)= 堤防・土手

以上の研究報告であった。防災対策で、古文書の価値が見直されている。講演の最初にも言われたが、最後にもう一度「落合池の調査でわかったことは、その被害は実際には甚大であった」と述べ、「古いものを調べると防災に役立つかなという感じがした」と締めくくられた。報告資料にはないが、付け加えられた徳島県海部郡海南町で安政元年の地震記録「震濤録」を解説された人がいると聞き、村役場に問い合わせたら、その著者から本を送ってくれたと話された。「浅川村と申す所にて石、人を生かす」という文書で、白鳳年間の地震で海水が押し寄せ、死者を出した。10日ぐらい前に年寄りが碑を建てていた。その碑をみたら天気が同じ様だったので家財を高台にもっていき避難した…という話である。古いものを調べると防災に役立つ事例である。現在は碑はなく、記録のみ残るといふ。

(記録：塚田忠雄)

## OPINION

### 『ふるさと春日井「書の風景」』

—「書のまち春日井」を書の看板で「まちづくり」—



看板「双月堂八幡」(春日井市鳥居松町)

茶房菓子店の老舗です。揮毫は服部大鵬という書家の筆によるものです。旧19号線沿いの「鳥居松商店振興会」の店舗が連なるメイン通りに威風堂々とした姿で掛かる看板は店舗の品格と格調の高さを周囲に誇示しているようにも見える風景です。この看板を鑑賞していると如何に看板の文字が重要であるかがわかります。情報化時代になるに従って宣伝ツールや手段はビジュアル化し、映像技術やコンピューターグラフィックの進化によって否応なし、まったなしに消費者心理を操作する時代になってきたからです。このことは、大量消費時代にはマッチした形態と言ってよいでしょう。通信販売はその典型的進化形態の一つなのかもしれません。が、物とお金が即物的に直結する物販には、利便性、迅速性においてこれに優ものはないでしょう。一刻の猶予も許さない多忙化した今日の社会ではこれが日常化し、あたりまえになっているのもやむを得ないのかもしれません。しかし、そこで、一呼吸置いて、これでいいのだろうかと敢えて考えてみたときに「双月堂」のような書的に芸術的な看板に出会うと精神が人間の心の原点に引き戻されて行くような感覚を覚えるのは私だけでないと思います。因みにこの看板は、近郷の書家の先生方にもっとも名の知れた、知る人ぞ知る名作として有名です。揮毫者服部大鵬氏は現在中日書道会に所属される書家ですが、どのような関わりでこの看板を揮毫されたのかは、私は知る由もありません。筆力、雅味、品格、造形美など兼ね備えたすばらしい墨跡だと思います。「堂」の字形で「口」と「土」の関係が不揃いであるにもかかわらず、全体として見事に調和のとれたじけいにしているセンスは心憎い程に感じられます。「書のまち春日井」を標榜するこの地が「書道芸術」で街角をこのような看板で埋め尽くすとどのような街角風景になるのか、想像しても楽しいものです。「書のまち春日井」のブランド化推進に関する一般質問が昨年12月の第5回市議会定例会で当会会員山田哲也市議によってなされました。行政の取り組み状況を問いただすものです。「書のまち春日井」をブランド化し、書芸術を通じて文化と歴史の香り漂う特色ある街角を創造してゆくことを行政当局に促されたこの質問は、春日井の「まちづくり」にとって画期的な出来事であると思いました。当会のコンセプト「ふるさと意識なくして活性化なし」の意識が様々な形のベクトルとなって現れているのではないかと感じました。

(文責：河地 清)

次回

「ふるさと春日井学」  
研究フォーラム（案内）  
第 37 回

日 時：平成 28 年 2 月 14 日 PM13：30～15:30

テーマ：『地域活性化を考える「ものづくり」の視点からの提言』

講師：**梶田 正勝 氏**（経営コンサルタント）

場所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容：

地域が活性化をするということは人・物・金が好循環して行くことです。地域の衰退はシャッター商店街に象徴されるように商業活動、物流活動の衰退として論じられています。製造企業のコンサルタントの眼から見た地域の活性化とはどのような発想か・・・続きは FORUM で

（各回非会員の方のみ資料代 500 円 徴収させていただきます。）

事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索